

「大草谷津田いきものの里」の紹介

太田慶子（千葉市）

日時：9月21日（木）13：00～14：30

担当指導員：遠藤 太田

千葉市がJ:COMの依頼で、「金光院」と「大草」の自然の紹介をすることになった。

当日、午後の部の「大草」では小雨が降りだしてなかなか止まなかったので、撮影が心配だった。ただ、大草の谷津田は木がかぶさるようになっていて、少々の雨なら木陰でできるということで、撮影は谷津田で決行された。

まず、担当の太田と遠藤が「大草谷津田いきものの里」とどのようにかかわっているかと聞かれ、「自分たちは動物班なので、月に一度どんな昆虫やクモ類などがいるか調べて市に報告していること」と、「第3日曜日に観察会を担当している（1人年に2回ほど）」と。2人とも「大草」とのかかわりは10年を超えると。

「大草の魅力は？」という質問については、「里山の自然がコンパクトにまとまっていること」なのだけれど、ふらりとやってきても「暗くて何も無いところかな」と最初遠藤さんも感じたような、自然がそのまま残っているだけのところ。が、そこは案内人がいるかどうかで見方が違ってくるので、観察会に出られるといろいろな発見があったと、皆さん喜ばれる。

では実際に観察会のスタート。すると小雨が降りだし、午前中は飛んでいたトンボ類の姿がなく、やっと林縁内を飛んでいるヒカゲチョウを見つけるがこれでは…。そこで、面白いクモに注目してもらった。網の真ん中にいて黄色く目立つナガコガネグモ。触れるとストンと下りてしまった。クモは尻に糸いぼがあるので、多くは逆さになっていて、いつでも逃げられるようになっていると。さらに面白かったのは、松葉のようなオナガグモ。とてもクモとは思えない、細い糸のようで、これに刺激を与えるとちゃんと8本脚を出す、という場面を撮るのをカメラマンは苦労されていた。とにかく対象が小さくてか細いのだから。けれど、確かにクモだとわかると、撮影隊も感動していた。

雨が小降りになると、緑米用のはさかけの、その尖った竹の先ごとにノシメトンボが翅を休めている。太田が指で1頭を捕まえると、そのシーンをもう一度と言われたが、それは無理。一度捕まったトンボは用心してしまう。観察会などで捕まえたトンボは「指をチョキにして翅を挟んで持つのだよ」と教えると、子どもたちはすぐに覚えてくれる。

ちょうど、ツリフネソウが見ごろだったが、蜜を吸いに来るマルハナバチは天気が悪くて来てくれない。そこへ、動きが・・・、ニホンアカガエルの登場でした。

放映は11月半ば過ぎということなので、「大草の冬の見どころは？」と訊かれた。「大草は冬でも水が溜まっているので、その冬水田んぼにニホンアカガエルが産卵のために出てきます。また、冬の寒い朝、田んぼに氷が張っている光景を見せるため、参加者を急がせて谷津田に導いたこともあります。」そんな光景を見せられるのも、自然の田んぼが残っているからでしょうと。



←オナガグモ↓

